

コミュニティ城崎 地域づくり計画

期間

R6（2024）年

～R15（2033）年



『桜通り』 作：伊賀 二郎 氏

コミュニティ城崎「地域づくり計画」の策定にあたって

豊岡市は、平成 29（2017）年度から市内に 29 あった公民館を廃止し、住民でつくる新しいコミュニティに組織変更を行いました。城崎においても 2 年間の設立準備委員会を経て同時期に誕生し、「地域振興」「地域福祉」「地域防災」「人づくり」を基本構想としての活動をはじめることとなりました。



設立当初は、「はじめの第一歩計画」に基づき活動を展開してまいりましたが、各部の事業を開催することを優先してきたことから、設立当初の計画や目的を見失う場面も少なからず見受けられました。そのため、もう一度原点に立ち返り、城崎地区のコミュニティ組織が何をめざし 10 年後にどのような姿の「きのさき」を描くのか等について検討、仕分けを行い『コミュニティ城崎地域づくり計画』として策定することにしました。

本計画は、今後我々が活動を展開するための道しるべとして、安心・安全と助けあい支えあう『住みよいふるさと城崎』を実現するためのものです。そのためには、各方面の関係団体をはじめ、住民の皆様の参画が不可欠であると考えています。

今後ともコミュニティ城崎へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コミュニティ城崎
会 長 宮 下 隆 司

目 次

第1章 城崎地区の概要	1
1 城崎地区の沿革	
(1) 沿 革	
(2) 地 勢	
(3) 地区の特徴	
2 人口の推移と課題	
(1) 人口の推移	
(2) 人口減少が生む課題	
第2章 地域づくり計画策定と基本的な考え方	3
1 地域づくり計画の概要	
(1) 目 的	
(2) 位置づけ	
(3) 取組期間	
2 策定の背景	
(1) 豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針の策定	
(2) コミュニティ城崎の設立と当初の取り組み	
(3) 運営するなかでの課題等	
ア コミュニティ組織の役割	
イ 運営体制の一部変更	
3 新たなコミュニティ城崎の取り組み（地域づくり計画の策定に向けて）	
(1) 目指すべき姿	
(2) 事業推進基本計画（10年後のあるべき姿）	
(3) 各専門部の事業推進計画（ロードマップ）	
第3章 さらなる未来への取り組み（持続可能なコミュニティをめざして）	15
1 計画等の見直し	
(1) 地域づくり計画	
(2) 各部運営体制	
(3) 事業の効率的な実施	
2 運営体制	
(1) 女性の参画	
(2) 住民理解と参画	
(3) 財源の確保	
第4章 策定の軌跡	17

第1章 城崎地区の概要

1 沿革等

(1) 沿革

平成 17(2005)年 4 月 1 日、1 市 5 町が合併し豊岡市城崎町となったが、旧城崎町は昭和 30(1955)年 2 月 1 日に城崎町と内川村が合併し、城崎町となっている。

以下、市町合併までの歴史を記す。

そもそも城崎町は、明治 22(1889)年 4 月 1 日、町村制の施行により今津村・湯島村・桃島村の 3 地区で湯島村が発足し、明治 28(1895)年 3 月 15 日改称し城崎町となった。

一方、内川村は明治 11(1878)年に定められた郡区町村編成法により戸長役場が設置され、結・戸島・楽々浦・飯谷は楽々浦戸長役場に属した。また、二見・上山・簸磯・来日は森津戸長役場に属したが、明治 22(1889)年の町村制により、円山川を挟んだ東側の結村・戸島村・楽々浦村・飯谷村と西側の上山村（現在の二見・上山・簸磯）、来日村の区域をもって内川村が発足している。

円山川の東西農山村地域の合併を経て観光地の城崎が更に合併し、多くの課題を乗り越え、改めて城崎町が発足した。

(2) 地 勢

城崎町は円山川の下流域沿いにあり、豊岡市街地から日本海に向かい内川地区が兩岸に位置し、約 3 km先に城崎温泉の市街地が西側に広がる。松葉ガニで有名な津居山港までは約 2 kmの近さであり、海面からの高低差は 2 m と出水期には幹線道路が冠水するなど水害に弱い側面を持っているため、水害対策が進められている。

また、ハザードマップに示されるとおり、城崎温泉街は三方を山で囲まれており、内川地区も急峻な山裾に集落を形成していることから、自然災害を受けやすい立地条件となっている。

公共交通機関として鉄道は玄武洞駅と城崎温泉駅があり、関西の奥座敷として知られ、京阪神から多数の直通特急電車があるが、城崎以西は非電化区間であり鳥取方面からの輸送密度が問題視されている。

一方、バス路線については、円山川の西地区は観光地ゆえに全但バスが多く発着しているが、円山川の東地区はバスの運行が皆無であり、以前から城崎温泉と一体的な観光施策の展開を求める声が多い。

(3) 地区の特徴

温泉街は駅から大谿川沿いに木造の旅館やお食事処、お土産店が立ち並び、点在する外湯の湯けむりが温泉情緒を醸し出している。大正 14(1925)年の北但大震災で壊滅的被害を受けた後に整備された道路は、今では歩行者天国さながらの

状態であり、温泉街の交通安全対策が急務となっている。

また、内川地区は、それぞれの地区に古事記や古墳時代に由来する神社や古墳等が多く存在するほか、近隣の学校の校歌に歌われる標高 567m の来日岳があり、山頂からは、出石や豊岡の市街地から円山川が蛇行を繰り返し、日本海に続く大パノラマが一望できる。特に秋は雲海から昇るご来光の様子は訪れる多くの人の感動を誘うなど観光客も多く訪れている。温泉街と内川地区のそれぞれに珠玉の名所があるものの一体的な観光の取組みがなされておらず、今後の取組みが期待されるところである。

2 人口の推移と課題

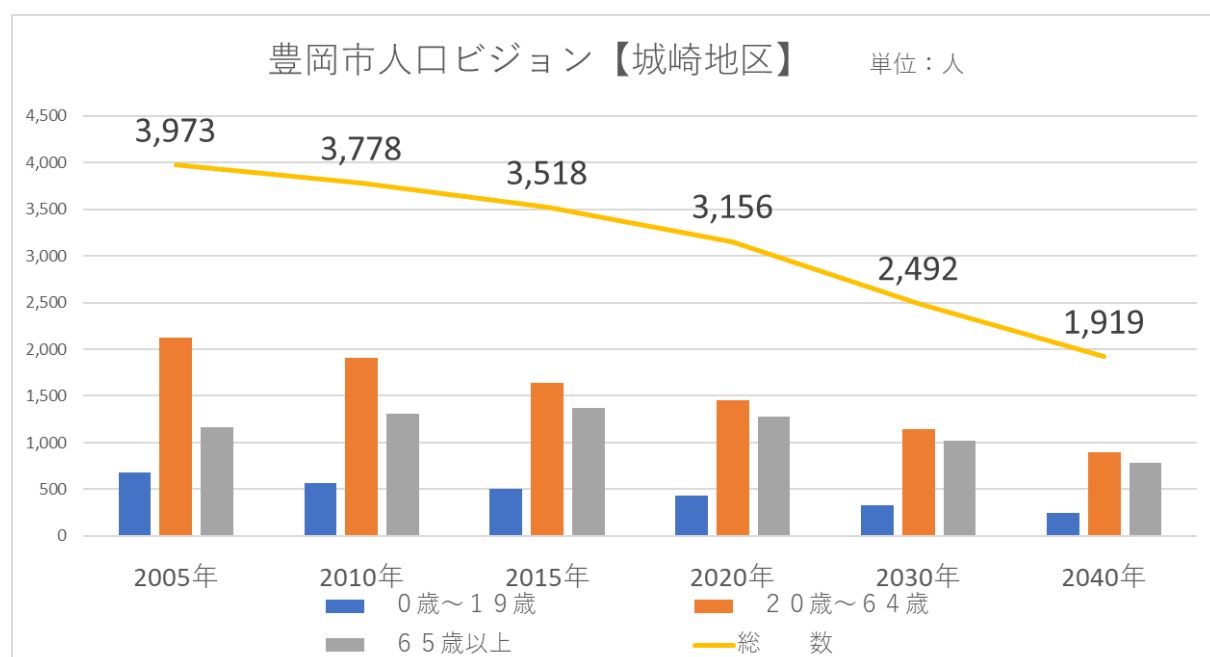
(1) 人口の推移

城崎地区の人口は昭和 30（1955）年の旧城崎町発足以来、微増してきたが、昭和 40（1965）年の 6,262 人をピークに減少し、令和 5（2023）年 8 月現在の城崎地区の人口は 3,053 人、世帯数は 1,559 世帯となっている。また、令和 2（2020）年に策定された豊岡市人口ビジョンによると、城崎地区の平成 27（2015）年の 65 歳以上の高齢者率は 38.9% で豊岡市全体の 31.7% と比較し、7.2 ポイント上回っている。さらに、令和 22（2040）年の推計人口は 1,919 人まで減少し、高齢者率は、40.6% と予測されており、人口減少対策は喫緊の課題となっている。

【城崎地区】 人口と年齢 3 区分別の人口の推移

(単位：人)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2030年	2040年
0 歳～19 歳	675	564	509	429	332	245
20 歳～64 歳	2,129	1,905	1,641	1,451	1,143	895
65 歳以上	1,169	1,309	1,368	1,276	1,017	779
総 数	3,973	3,778	3,518	3,156	2,492	1,919



人口減少の歯止めをかけるためには、ふるさと城崎への回帰率の向上とともに若者世代が住みやすい町の実現に向けた抜本的な改善施策の導入が求められるが、カンフル剤はなく地道な取り組みとなっており、人口減少、少子高齢化が進む中、住民一人ひとりが安心して生活するためにどのような地域づくりをしているかが課題である。

城崎地区には 31 行政区があるが、令和 5（2023）年 3 月現在で、限界集落が 5 区、準限界集落が 21 区と農村部である内川地区のみならず、湯島地区にも広がっている。

限界集落では伝統文化や行事の存続が困難になるばかりでなく、防災機能の低下、新たな空き家の増加により、強風時の飛散、倒壊、火災の発生等の可能性があり、法制度も含め対策が求められる。令和 4（2022）年現在、豊岡市の自主防災組織率 78.6%に対し、城崎地区は僅か 11 区で 35.5%と最下位であり、防災訓練実施率も 35.5%で、実施しているのは内川地区に集中しているなど、防災意識の高揚が求められる。

一方、団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年問題は、高齢者世帯や独居高齢者の増加に伴う見守り活動がますます重要となる。また、ダブルケアラー、ヤングケアラー等、福祉課題は複雑多様化し、行政区、コミュニティ、社会福祉協議会、行政が一体となった取り組みにより、住民一人ひとりが安心して生活できる見守りや更なるふれ合い、助け合いの地域づくりが求められている。

第 2 章 地域づくり計画策定の目的と基本的な考え方

1 地域づくり計画の概要

(1) 目 的

本計画は、コミュニティ城崎規約にも明記している「あいさつが生む、つながりを大切にする城崎」の推進を図るとともに、誰もが安心して幸せに暮らし続けられる地域をめざし、今後 10 年間のコミュニティ城崎の将来像、また、それを実現するための方策など、コミュニティ城崎のあるべき姿への基本的な方向性を示すことを目的とする。

(2) 位置づけ

本計画は、豊岡市いのちへの共感に満ちたまちづくり条例、豊岡市基本構想、豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針、その他計画等の関連性を踏まえつつ、コミュニティ城崎規約に則り地元住民に親しまれ、『市民相互の思いやり助け合いにより、健康で明るく、楽しく、住みよい城崎となっている』姿を実現するための具体的な計画を指し示すものとする。

(3) 取組期間

令和 6（2024）年度 ～ 令和 15（2033）年度

ただし、概ね 3 年ごと（2027 年度、2030 年度、2033 年度）に見直しを行うものとする。

2 策定の背景

(1) 豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針の策定

豊岡市は、今後人口が減少し、少子高齢化も進むことにより行政区の力が弱まり、行政区単独で解決できないような課題が増えることを想定し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域づくりの考え方を基本に、地区（旧地区公民館の区域）における今後の地域づくりの方向を示すため平成 27（2015）年 2 月に「豊岡市新しい地域コミュニティのあり方方針」を定めた。

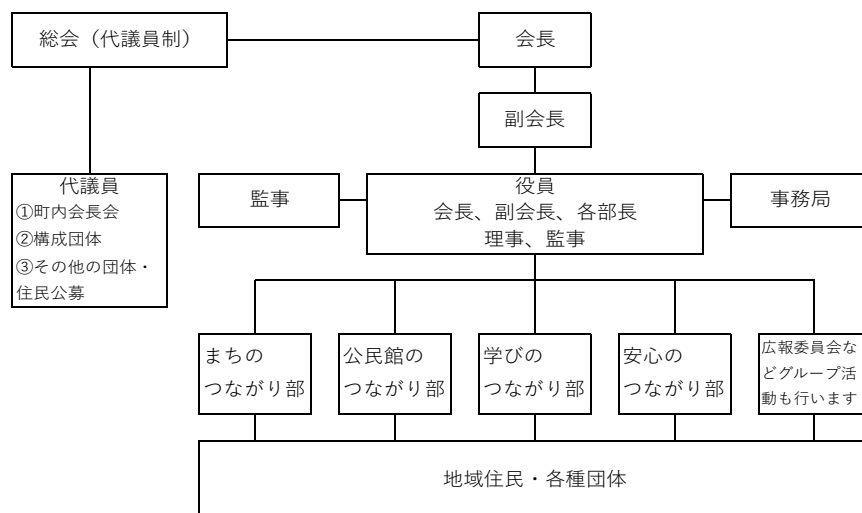
城崎地区においても地区コミュニティ組織を立ち上げ、さらにその活動拠点として平成 29（2017）年 4 月に、城崎地区公民館を城崎地区コミュニティセンターに一新し、住民が主体的に活動を展開する組織に移行することになった。

新しい組織では、行政区ごとの運営を基本にしつつ、人口減少による自治組織の存続など、住民は区の運営をはじめ、地域福祉や防災のほか伝統文化の伝承等さまざまな課題に不安を感じていることから、「持続可能な地域づくり」を目指し、住民自治によるまちづくりを実現するための具体的な計画を策定することになった。

(2) コミュニティ城崎の設立と当初の取り組み

コミュニティ城崎は、平成 27（2015）年 6 月に「第 1 回城崎地区コミュニティ設立準備委員会」の開催を経て、平成 28（2016）年 12 月 16 日に設立総会を、平成 29（2017）年 5 月 26 日に第 1 回定期総会を開催した。

その際、各町内会長のアンケートや各部会によるワークショップなどの意見をもとに「はじめの第一步計画」としてまとめたうえで、「旧公民館活動」「地域振興」「地域福祉」「地域防災」「人づくり」の分野で事業展開する専門部を設置し活動を開始した。



コミュニティ城崎 はじめの第一歩計画（案）

キャッチフレーズ 共に思いやり共に助け合い共に暮らそう

ビジョン【コミュニティ城崎が目指す「城崎の将来像」】

あいさつが生む、つながりを大切にするまち城崎

コンパクトなサイズのまちだからできる、人々のつながりを大切にし、
住む人も、訪れる人も、帰ってくる人も気持ちよく暮らせる町にしたい
いつでもあいさつが響き、誰でも受け入れ助け合えて、
生きがいを持って楽しく暮らせる町をめざしたい

- ・ミッション1【つながりを維持し、あいさつとにぎわいのあふれるまちをつくる】
- ・ミッション2【公民館活動を継続し、体育や文化でつながりをつくる】
- ・ミッション3【助け合い教え合うつながりを生きがいや成長につなげる】
- ・ミッション4【安全・安心で、お年寄りが暮らしやすいつながりをつくる】

事業計画	H29	H30	H31 以降
町民運動会の見直し(工夫と盛り上げ)	◆	◆	◆
町内(行政区)の連携と負担軽減	◆	◆	◆
城崎まち中美化運動	◆	◆	◆
つどい場作り (カフェ→子ども食堂)	◆	◆	◆
ふれあいクッキング	◆	◆	◆
ふれあい運動遊び (ゲーム遊び)	◆	◆	◆
公園遊び場計画 (秘密基地、花、P R)	◇	◆	◆
地域を動かす「プレイヤー」人材棚卸し	◇	◇	◆
ふるさと城崎(豊岡)を知る事業	◆	◆	◆
居酒屋『さんかい(三階)』運営		◇	◇
移動交通システムの構築(内川-城崎、販売)		◇	◇
そのほかこんな計画も▼地元イベントへの出展／環境エコポイント推進／温泉研修／雲南市研修／農産物の収穫体験／ネットの活用／演劇交流			

◆は事業実施、◇は検討開始

(3) 運営するなかでの課題等

ア コミュニティ組織の役割

豊岡市における人口減少、少子高齢化などの課題に取り組み、今後の地域づくりの方向を示すためコミュニティ組織に移行したが、コミュニティ組織としてそれぞれの課題にどのように取り組むのかについて、試行錯誤しながら運営している。今後、コミュニティ組織の立場を次の2つの項目に基づき検討していきたい。

ともに知る ➡ 課題を見て確認してまず知る。各部で取り組みできないか、コミュニティ組織内で共有する。

*新たな課題に対しては、町内会を超えた活動に取り組むとともに、検討部署を新たに整備するなど

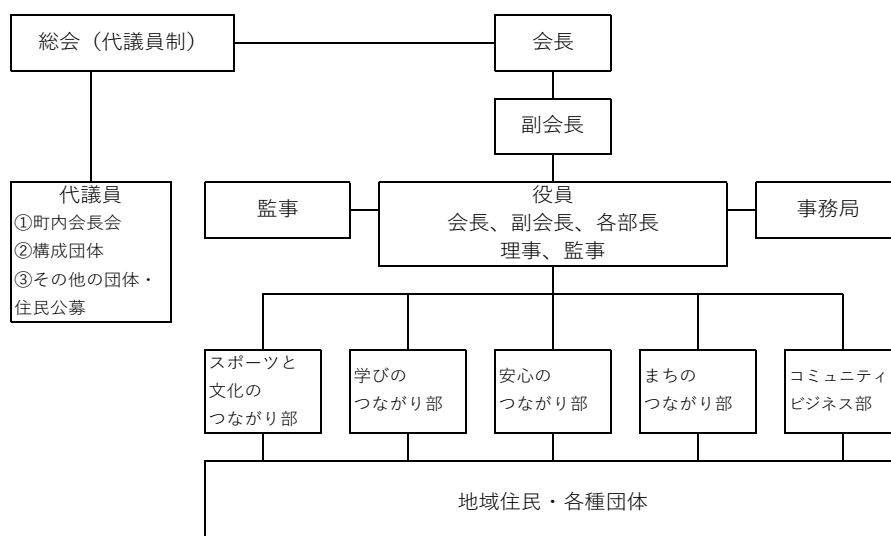
人とつなぐ ➡ 関係機関、専門部署に的確につなぐ。

*市内コミュニティ組織と連携を取りながら、的確に対応できる機関、専門部署等に引き継ぐ。

イ 運営体制の一部変更

設立当初、「はじめの第一歩計画」に基づき、4つの専門部を設置した。社会体育と文化振興を担当する「公民館のつながり部」、人づくりをめざした「学びのつながり部」、地域福祉・地域防災を担当する「安心のつながり部」、地域振興と町内連携をめざした「まちのつながり部」を設置し各部の事業を進めてきた。このような中で、令和2（2020）年4月、ビジネスの手法を用い新たな課題の解決を図るため、豊岡市内コミュニティ組織としては初めて「コミュニティビジネス部」を設置した。同部は、「湯ったり朝市事業」を計画、運営し、市街地と農村部相互の交流を図るとともに、新鮮な野菜の販売を通じて「城崎の野菜を城崎で消費する」地産地消事業にも取り組んでいる。今後、ビジネス手法を用いた事業を積極的に計画し、実施する予定である。

また、併せて同時期に「公民館のつながり部」を「スポーツと文化のつながり部」に改めて新たな事業展開を開始した。



3 新たなコミュニティ城崎の取り組み（地域づくり計画策定に向けて）

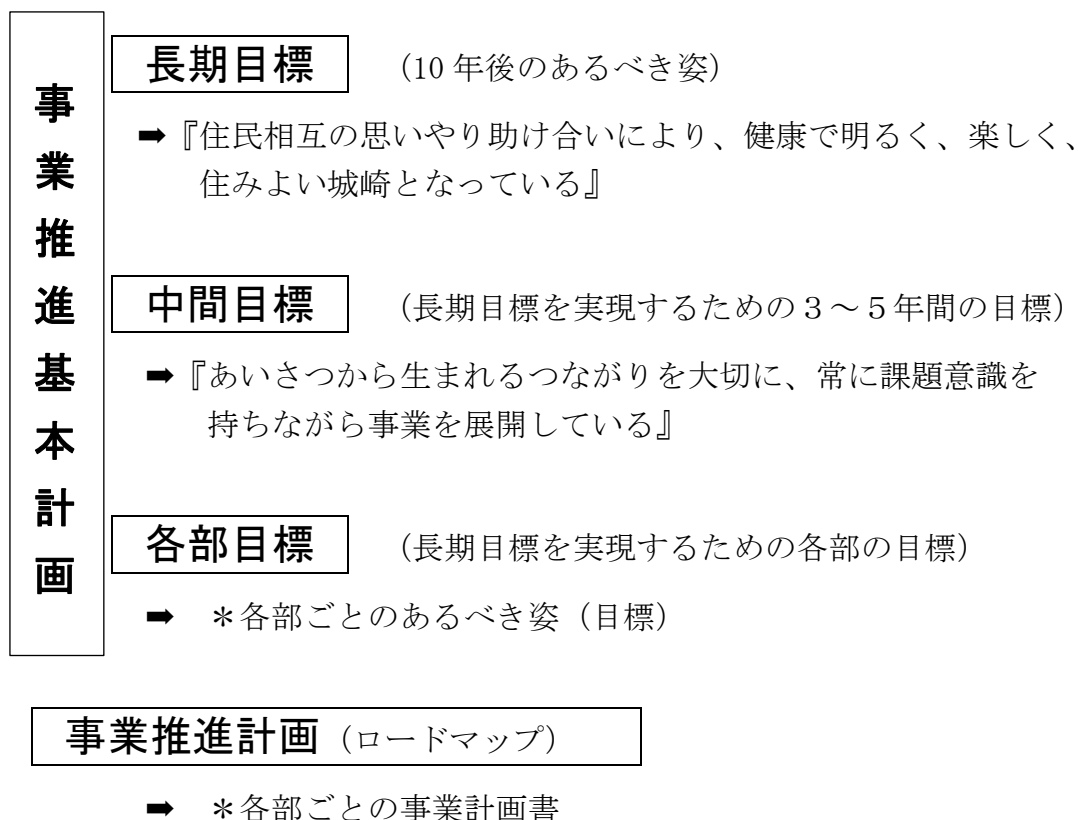
(1) 目指すべき姿

コミュニティ城崎では、各部ごとの事業を実施することを優先し運営してきたこともあり、「地域づくり計画」が整備されていなかった。令和5（2023）年度は、設立から7年経過し、この際、10年後のコミュニティ城崎のあり方を考えるにあたり、「コミュニティ城崎地域づくり計画」の策定は必須であり取り組むことにした。

まず、地域づくり計画の根幹となるコミュニティ城崎がめざす10年後のあるべき姿を長期目標として定め、長期目標を実現するために中間目標、さらには各部ごとに細分化した事業実施計画を一目でわかるように「事業推進基本計画」としてとりまとめた。

次に、この「事業推進基本計画」に基づき、各部で検討協議したうえで各部ごとに「事業推進計画（ロードマップ）」を作成し事業推進することにした。

～～～【10年後のあるべき姿を検討するための概念】～～～～～～～～～～



(2) 事業推進基本計画（10年後のあるべき姿）

長期目標	住民相互の思いやり助けあいにより、健康で明るく、楽しく、住みよい城崎となっている
中間目標	あいさつから生まれるつながりを大切に、常に課題意識を持ちながら事業を展開している

スポーツと文化の つながり部	新しい考え方のもと市民一人ひとりが運動できる場、伝統文化に触れる場ができている。
-------------------	--

01 一人ひとりに運動する習慣ができている

02 地域の伝統文化を知っており、常に触れる機会がある

03 リーダーと住民が協働し、運動を通した住民相互交流の場ができている

学びのつながり部	まちの良さをすることでふるさとを愛し、賑わいあふれるまちになっている
----------	------------------------------------

01 地元企業を知り、地元を離れても城崎を誇りに感じ城崎と関わりを持っている

02 大人と子どもも交流しながらふるさとを愛し、遊びながら学べる場ができている

03 多様性を受け入れ、外部の人と積極的に交流している

安心のつながり部	助け合いとつながりを大切にし、安心安全の明るいまちになっている
----------	---------------------------------

01 地域で一人ひとりの交流が積極的に行われ、日頃の困りごとを話し合えている

02 地域の危険箇所を知っていて常に防災意識を持っている

03 防災の知識をまわりの人に積極的に伝えている

まちのつながり部	古き伝統を守りつつ、新しい視点を取り入れ、賑わいあふれるまちになっている
----------	--------------------------------------

01 伝統行事を定期的に開催し学びあう体制ができている

02 誰もが気軽にあいさつを交わしている

03 高齢者でも気軽に出かけることができている

コミュニティ ビジネス部	「食」と「農」を通じて笑顔あふれるふるさと城崎になっている
-----------------	-------------------------------

01 市街地と周辺地域の交流が進み、役割の明確化、特徴と良さが認識されている

02 住民が農業を体験し、城崎の野菜が地元で消費されていることを知っている

03 生産者がやりがいを持ち野菜等の生産に取り組んでいる

事務局	多様な人材で運営に関わっているとともに、活動を市民が知っている
-----	---------------------------------

01 女性も積極的に活動に参加して、男女問わず次世代の人材育成ができている

02 コミュニティ城崎の活動を市民が理解している

03 各部の活動をマネジメントするなかで、スタッフの生涯学習の場となっている

※各部の具体的な実施事業は、事業推進計画（ロードマップ）に記載する。

(3) 各専門部の事業推進計画（ロードマップ）

スポーツと文化のつながり部

10年後の 目 標	新しい考え方のもと住民一人ひとりが運動 できる場、伝統文化に触れる場ができている
--------------	---

課 題	① 運動する習慣と機会が少なくなっている
	② 伝統文化に触れる場が少ない
	③ 文化活動や運動を通じて交流する機会が少ない

主な事業	① スポーツ大会を開催（運動する習慣、住民相互の交流を図る）
	② 文化のつどいを開催（成果発表の場、多様な芸能文化に触れる機会）

取組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
城崎地域運動会	方針決定	方針に基づき実施								
文化のつどい	方針決定	方針に基づき実施								
文化に親しむ事業 (麦わら細工体験教室など)	実施しながらその都度協議									
玄さんいきいき教室	実施しながらその都度協議									

協力団体等

- ・ 城崎文化協会
- ・ 城崎スポーツ協会
- ・ コミュニティ企画運営委員
- ・ スポーツクラブ21城崎
- ・ スポーツ推進員
- ・ バザー出品者
- ・ 麦わら細工技術者
- ・ 豊岡市（健康増進課）



元気に長生き
伝統文化と
スポーツと共に

城崎地域運動会

学びのつながり部

10年後の 目 標	まちの良さを知ることのできるさとを愛し 賑わいあふれるまちになっている
--------------	--

課 題	① まちの良いところ（地元企業、史跡、遊び場等）をよく知らない
	② Uターン、Iターン者が少なく、定住と関係人口増加につながっていない
	③ 外部との交流の場が少なく、学ぶ場が少ない

主な事業	① 市内企業見学の実施（地元へのUターンをめざす）
	② 子ども、おとな教室の開催

取り組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
市内企業見学（Uターン者）	企業見学事業の企画・実施、Uターン者の検証									
子ども教室 （運動遊び、工作など）	子ども教室の企画・実施									
おとな教室 （英会話、クッキング教室など）	年に数回希望に合う講師を選定・実施									
タイムカプセル事業	小学6年生が二十歳の自分に招待状を書く・タイムカプセルを開封する									

協力団体等

- ・ 城崎小学校
- ・ 城崎中学校
- ・ 城崎こども園
- ・ 外部指導者
- ・ 市内企業



工作しながら
勉強できるよ！
いろんな人と
交流できるのもいいね

子ども教室 工作

安心のつながり部

10年後の 目 標	助け合いとつながりを大切にし、安心安全の 明るいまちになっている
--------------	-------------------------------------

課 題	① 防災意識が低く、知る機会が少ない
	② 研修の機会が少なく、また、知り得た知識を生かせない
	③ 世代間交流がなく、住民が困りごとを言えない

主な事業	① みんなのカフェの開催（困りごと等の聞き取りの場）
	② 防災啓発事業の実施、自主研修の開催（実践講座、手話等）

取組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
みんなのカフェ（交流事業）	企画・運営			常設に向けての調査						
防災教室「みんなで防災！」	調査・検討			防災事業の企画・運営						
福祉研修 （手話、認知症など）	情報収集・年に数回希望に合う講座を開催									
研修への参加 （市外先進地視察など）	情報収集・年に1回程度研修会を開催									

協力団体等

- ・ 城崎町町内会長会
- ・ 豊岡市社会福祉協議会
- ・ 城崎民生委員児童委員協議会
- ・ 豊岡市（危機管理課ほか）
- ・ 豊岡警察署
- ・ 豊岡消防署城崎分署
- ・ 城崎消防団



みんなでつくろう
つどいの 輪・WA・和

みんなのカフェ

まちのつながり部

10年後の 目 標	古き伝統を守りつつ、新しい視点を取り入れ 賑わいあふれるまちになっている
--------------	---

課 題	① 大人と子ども間で積極的な挨拶が行われていない（見守る目の不足）
	② 伝統行事の後継者が育っていない（交流機会の減少や廃止・担い手の不足）
	③ 地域の為に尽力する団体が多数あるが連携がとられていない

主な事業	① 縁が和プロジェクトの実施（クリーンUP作戦、腐葉土づくりなど）
	② 歳時記プロジェクトの実施（地域の伝統行事記録、再現事業実施）

取組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
大好き♡城崎クリーンUP作戦	実施しながらその都度協議									
腐葉土づくり （野菜・花の栽培、プランター植込み）	実施しながらその都度協議									
歳時記づくり	調査・制作		再現事業							
あいさつ運動・ながら見守り （啓発、立番等）	実施しながらその都度協議									

協力団体等

- ・ 城崎小学校
- ・ 城崎中学校
- ・ 湯ったり朝市出品者
- ・ 城崎温泉観光協会
- ・ 城崎農会長会
- ・ 豊岡市社会福祉協議会
- ・ 城崎民生委員児童委員協議会
- ・ JAたじま城崎支店
- ・ 城崎町花と緑の協会
- ・ JR西日本豊岡管理駅
- ・ 豊岡市商工会女性部城崎支部
- ・ 但馬500人委員会OB会城崎支部
- ・ 更生保護女性会城崎支部
- ・ 環境衛生推進協議会
- ・ 各事業所

つないでいきたい
故郷への想いと資源のバトン！



腐葉土づくり

コミュニティビジネス部

10年後の 目 標	「食」と「農」を通じて、笑顔あふれる ふるさと城崎になっている
--------------	------------------------------------

課 題	① 市街地と周辺地域のつながりが薄くなっている
	② 高齢者の移動手段がなく、買い物できる機会が少なくなっている
	③ 新鮮な野菜が認識されずに広く利用されていない

主な事業	① 湯ったり朝市の開催
	② 生産者と消費者との交流・イベント事業の開催

取り組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
湯ったり朝市（交流事業）	企画・運営			開催場所の見直し・出張朝市を検討						
収穫体験農園	調査・検討・調整			実施しながら検討						
新たな移動手段の検討	調査・検討・調整			実施準備						
地産地消事業	調査・研究			事業開始						

協力団体等

- ・ 営農組合
- ・ 城崎小学校
- ・ 城崎中学校
- ・ 湯ったり朝市出品者



新鮮な野菜がいっぱい！
観光客にも大人気！

湯ったり朝市

事務局

10年後の 目 標	多様な人材が運営に関わっていると同時に 活動を住民が知っている
--------------	------------------------------------

課 題	① 男性ばかりが役員（部長以上）に就任している
	② コミュニティ城崎の活動が住民に知られていない
	③ 各部を俯瞰的にマネジメントする人材が育成できていない

主な事業	① 広報活動の実施
	② 各部の活動以外の事案に取り組む

取り組み事業／年度 ★＝見直し	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
				★			★			★
広報（コミキノ・SNS）	実施しながらその都度協議									
研修等（先進地視察など）	実施しながらその都度協議									
各種団体との連絡調整	実施しながらその都度協議									

協力団体等

- ・ コミュニティ企画運営委員
- ・ 青少年育成城崎町民会議
- ・ 豊岡市立図書館城崎分館
- ・ 城崎地域子ども会連絡協議会
- ・ 城崎温泉観光協会
- ・ 城崎温泉旅館協同組合
- ・ 豊岡市商工会青年部城崎支部



城崎見て歩き

もっと知ってほしいな
コミュニティ城崎のこと

第3章 さらに未来への取り組み（持続可能なコミュニティをめざして）

1 計画等の見直し

(1) 地域づくり計画

地域課題の多様化する中で「コミュニティ城崎地域づくり計画」も変更しなければならない。そのため概ね3年ごと（2027年度、2030年度、2033年度）に内容の見直し、修正を行うものとする。見直しにあたっては、その都度各部におけるワークショップ等の開催を行うなど意見集約する体制をとるものとする。さらには、住民ニーズに細かく対応するために全戸アンケート等を実施するなど、適切な手法により現況を把握する必要がある。

(2) 各部運営体制

地域づくり計画の見直しに伴い、運営体制も見直し必要に応じ重要な事項について協議するためのプロジェクトを設けるなど適宜見直し検討するものとする。

(3) 事業の効率的な実施

事業実施にあたっては、各部、事務局単位でPDCAサイクルに基づいたマネジメントを行い、全体の進捗状況を常にチェックしながら進めるものとする。

• Plan	=	計画
• Do	=	実行
• Check	=	評価
• Action	=	改善

2 運営体制等

(1) 女性の参画

豊岡市男女共同参画プラン及び豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略では、コミュニティにおける女性役員の割合の目標値を30%以上と定めており、今後もコミュニティ組織における運営体制にも積極的に女性が参画する体制を進める必要がある。

コミュニティ組織としても男女が共に企画立案や方針決定に参画している社会が理想であるととらえている。具体的に女性が積極的に参画しやすい体制とするための方策として、会議等に自宅からオンラインでの参加を可能にするなど環境を整え、親子連れでも会議等に参加しやすい雰囲気を醸成するなどが考えられる。今後、専門家の助言も受けながら積極的に取り組む必要がある。

(2) 住民理解と参画

コミュニティ組織の運営にあたっては、地域課題を住民一人ひとりが我が事としてとらえ地域のことに関心を持ち、自らが考え行動、参加することが重要であるとする。

そのためにも、コミュニティ組織が町内各種団体と密接に連携をとる必要があり、まずは城崎町町内会長会とは強力に連携する関係にあると考えている。

そのほかにも、サークルなどの小規模なグループや、町内の各種団体、福祉事業者等とも情報交換の場を積極的、かつ定期的に設けることで、新しい発想による住民主体の事業が企画、運営されている状態が実現可能となる。このような状態となることで、長期目標に掲げるコミュニティ城崎の10年後のあるべき姿の実現につながると考える。住民自らが企画、運営等を担っていく姿をめざして引き続き取り組んでいきたい。

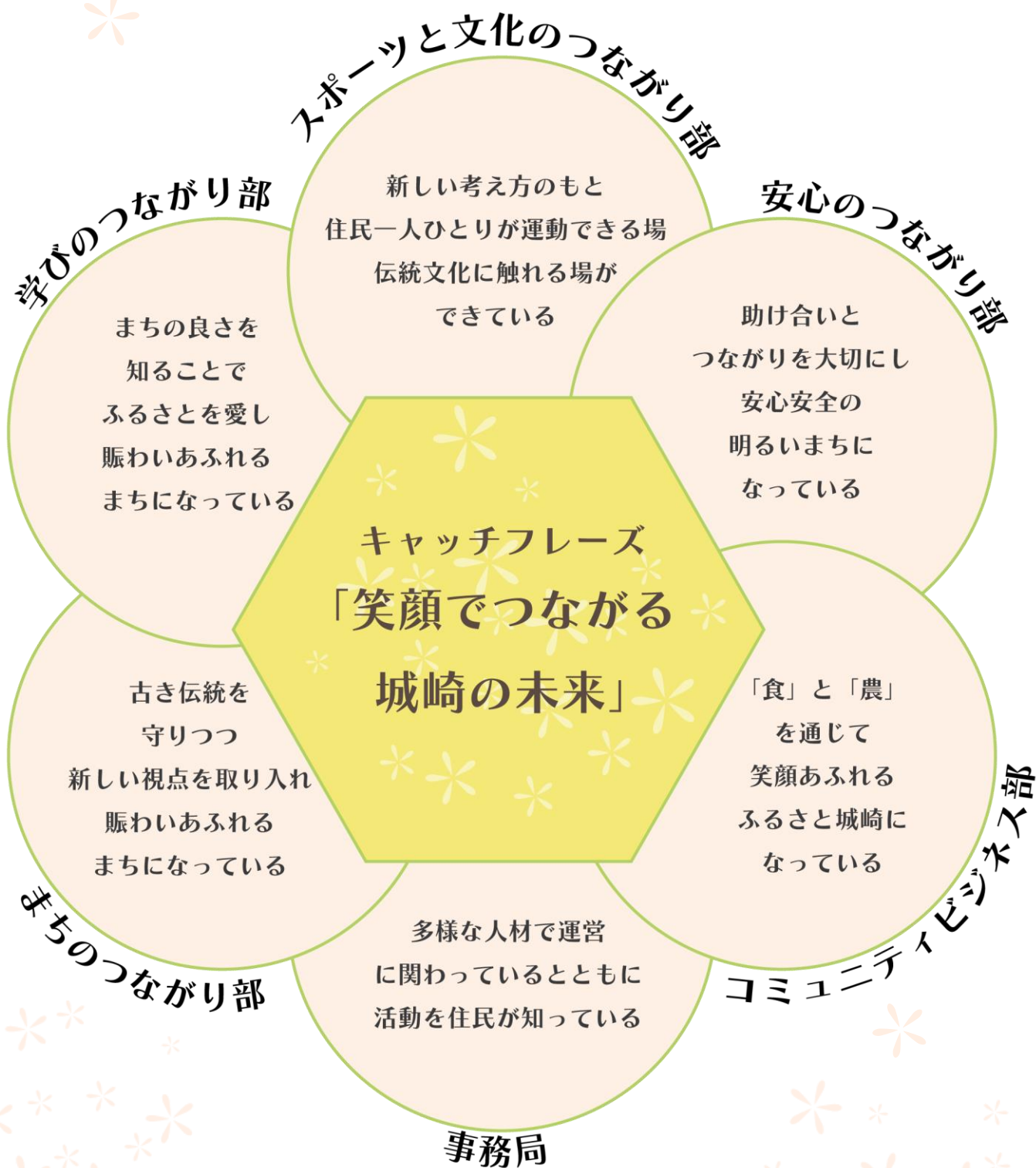
(3) 財源の確保

コミュニティ組織の運営にあたっては、コミュニティ交付金（豊岡市）、地区協力金（町内会）、寄附金、補助金を財源とする。また、コミュニティビジネス部の活動においては、ビジネスの手法を用いて新たな財源確保をめざす。

第4章 策定の軌跡

年 月 日	会 議 内 容 等
平成27年（2015）年	
6月9日	第1回城崎地区コミュニティ設立準備委員会開催 ※以後計16回開催
7月24日	キノコミ通信（現コミキノの前身）第1号発刊 ※現在、第40号発行
平成28年（2016）年	
12月16日	コミュニティ城崎 設立総会
平成29年（2017）年	
4月1日	コミュニティ城崎 認証式
5月20日	コミュニティ朝市開始
5月26日	コミュニティ城崎 第1回定期総会開催
平成30年（2018）年	
5月20日	朝市開催1周年記念イベント KAKEHASHI・安心のつながり部・その他6店出店
令和元年（2019）年	
4月22日	コミュニティビジョン説明会（豊岡市地域コミュニティ振興課から）
令和2年（2020）年	
2月16日	とよおか地域づくり大会2019にて発表
9月24日	第1回ビジョン会議（部長会議）
11月25日	第2回ビジョン会議（部長会議、資料作成について）
令和3年（2021）年	
5月21日	第3回ビジョン会議（部長会議）
7月1日	第4回ビジョン会議（部長会議、市との打ち合わせ）
10月27日	第5回ビジョン会議（部長会議）
令和4年（2022）年	
2月10日	第6回ビジョン会議（部長会議、各部の取組みについて）浅見AD同席
12月5日	第7回ビジョン会議（部長会議）
12月27日	第8回ビジョン会議（部長会議）
令和5年（2023）年	
3月3日	第9回ビジョン会議（部長会議）
4月27日	第10回ビジョン会議（部長会議）
6月27日	第11回ビジョン会議（部長会議、計画概要の検討等）
8月18日	第12回ビジョン会議（部長会議）
9月28日	第13回ビジョン会議（部長会議）
10月30日	第14回ビジョン会議（部長会議、概要版について）
11月24日	第15回ビジョン会議（部長会議、計画書配布計画等について）
12月21日	第16回ビジョン会議（部長会議、計画内容の最終確認等）

住みよい城崎をめざして 我々が目指すべき姿です



笑顔でつながる 城崎の未来



発行者：コミュニティ城崎

〒669-6195 豊岡市城崎町桃島1057-1

TEL0796-21-9071

Email : kinosaki-cc@office.eonet.ne.jp



コミュニティ城崎
ホームページは
こちらからどうぞ

 <https://comikino.wordpress.com>